

沼津港

“魚市場”と“富士山”で年間150万人以上の観光客を魅了！

官民連携で **みなと** × **まち** のプロデュース

—今年も、観光バス渋滞を解決するための実証実験を実施—

静岡県は、沼津港の新しい時代を見据え、質の高い公共空間へと導くため、「みんなで創り、みんなが集うガーデンポート」をキャッチフレーズとした新たなビジョン「沼津港みなとまちづくり推進計画」を平成27年12月に策定しました。

沼津港では、このビジョンの実現に向け、沼津港全体を一つの地域と捉え、地域が主体となってまちづくりを運営していくエリアマネジメントの概念を取り入れた組織体制を整え、官民連携によるみなとまちづくりを進めています。

年間150万人以上が訪れ、年々賑わいを増している沼津港。「みなとまちづくり」を確実に推進し、来訪客の満足度を高めるために「今すぐ、やっておくべき対策」として、県は今年、観光バスの受入態勢を強化する「ショットガン方式」による実証実験を地域の協力を得て行います。

これは、不足する観光バス駐車場に対し、乗降場所と駐車場を分離することにより混雑を解消し、港の近くで乗り降りでき、かつ、観光バスの受入容量を増やすことを目指す取組です。

沼津港から眺める富士山

大型展望水門「びゅうお」

観光客を魅了し、胃袋を満たす飲食店街や、つつい買いたくなってしまう優良な海産物販売店



みなとまちづくりを進める 実施体制

沼津港振興会

役割：計画の推進母体

会長は沼津市長、副会長は沼津商工会議所会頭と沼津観光協会会長が務め、沼津港への愛護精神のもと、関係者一同が参画してその整備、発展及び利用の促進に尽力する組織。

実働組織

沼津港みなとまちづくり会議

「沼津みなとまちづくり推進計画」を指針として、沼津港振興会を母体とした委員で構成する組織。エリアマネジメントの担い手として活動を展開し、将来像を目指す。

報告 ↑ ↓ 指示・指導

沼津港みなとまちづくりプロデュースチーム

—取組の詳細検討・提案—

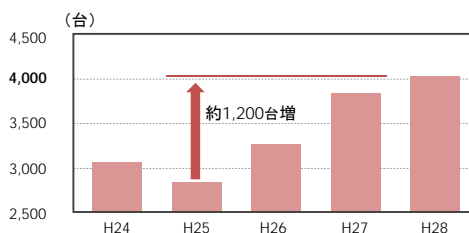


意見・助言
(必要に応じ、メンバーとして参画)

市民、来訪者、外部団体、
専門家、学識経験者、アドバイザー 等

観光客を運ぶ大型バス4,000台超 不足する大型バス駐車場！！

沼津港の大型バス駐車場*利用台数の推移



現状：大型バス駐車場11台（※沼津観光協会所管）

大型バスの駐車場が足りていない!!

着目

今後予定される施設整備
北物揚場 → 多目的広場、バス・タクシー乗降場
内港 → 浮棧橋
西物揚場 → 憩い・交流空間の創出



沼津港みなとまちづくり推進計画平面図より

乗降場と駐車場を分離 北物揚場を使った “ショットガン方式” 実証実験

“ショットガン方式”は、施設周辺の駐車場を乗降のみに利用し、近隣駐車場に適切に誘導することにより、駐車場の回転率を高め、乗客の乗降等により発生している混雑や駐車場不足の解消を目的としたものです。

ショットガン方式概要

